

リーディングDXスクール事業【実践事例】

習志野市立香澄小学校（千葉県）【指定校】

【取組内容】 情報モラル教育の充実を図る

【情報モラル教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の充実】

「個別最適な学び」については、一人一台タブレット端末を活用することにより、自ら見通しを立てたり、自ら判断し、状況に応じた行動を生活に生かしたりする態度を養えるようにする。ネットワーク上でのコミュニケーションにおいても、相手を気持ちを考えた対応と行うと共に決まりや約束を守れるようにしていく。

「協働的な学び」においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、一人一台タブレット端末を活用しながら、児童生徒一人一人の考えを以生かし、よりよい学びを生み出していけるようにする。

【ねらい】 一人一台タブレット端末を活用し、インターネットの使い方やSNSによるコミュニケーションの仕方について学ぶ。

【対象】 小学校4・5・6年生児童

【取組①】 Forms を活用したインターネット利用状況におけるアンケート調査と集計】

- ・ Forms（データ集計アプリ）を活用したインターネット利用状況のアンケート調査と集計を行った。
- ・ 授業の事前にはFormsを活用したインターネットの利用状況に関するアンケート調査を行い、集計結果をまとめた。導入時では、その集計結果を児童に分かりやすく伝えるために、資料を作成し、黒板に掲示した。

インターネットの利用についてのアンケート

1. 性別を教えてください。 ☐ 男 ☐ 女

2. 学校から配付されているタブレット以外で、自分だけのネット機器をお持ちですか？ 該当はまるものすべて回答。 ☐ 持っていない ☐ スマートフォン ☐ ゲーム機

Formsによるアンケート調査

利用していない	遊ばない	30分～1時間未満	特に決まりやルールはない
4	遊ばない	30分～1時間未満	決めていない・守っていない
5	30分～1時間未満	遊ばない	30分～1時間未満
6	2～3時間未満	30分未満	30分未満
7	利用していない	30分未満	30分未満
8	2～3時間未満	遊ばない	30分～1時間未満
9	30分未満	30分～1時間未満	30分～1時間未満
10	利用していない	遊ばない	2～3時間未満
11	利用していない	1～2時間未満	30分～1時間未満
12	30分未満	1～2時間未満	30分～1時間未満
13	1～2時間未満	30分未満	決めていない・守っていない
14	利用していない	遊ばない	30分未満
15	30分未満	1～2時間未満	決めていない・守っていない
16	利用していない	遊ばない	見ない

Formsによるアンケート集計

ゲーム機	12	63	遊ばない	7	37
スマホ	10	52	30分未満	4	21
タブレット	7	36	30～1時間未満	2	10
その他	4	21	1～2時間未満	6	5
	3	15	30分以上	0	32
			30分以上	0	0

授業の導入時に集計結果を掲示

リーディングDXスクール事業【実践事例】

習志野市立香澄小学校（千葉県）【指定校】

【取組内容】 学校全体における情報モラル教育の充実

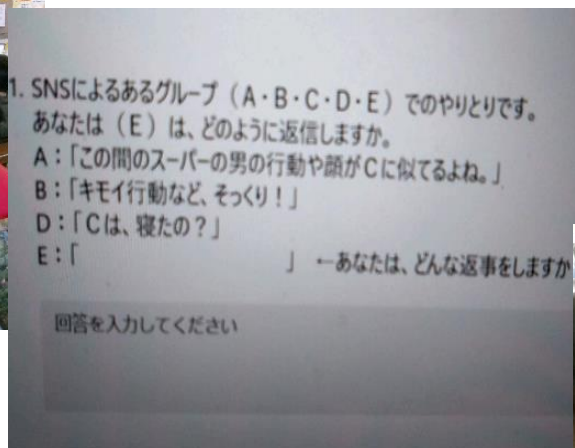
【取組② YouTube・Formsを活用し、SNSにおけるコミュニケーションにおける学び合い】

- ・近年の情報化社会における「個人情報の流出」や「誹謗・中傷」等の問題に関する啓発動画（YouTube）を視聴し、本時の課題について確認した。
- ・友人や知人からSNSを通して「個人情報の流出」や「誹謗・中傷」等に関連した書き込みがあった際の対応（返事）について考え、Formsを活用して児童一人一人が投稿した。



ネット犯罪防止啓発動画の視聴

個々の考えた投稿について、Formsで集計し、画面を通して全体で共有を図ることで、互いの考えを知ること、SNS上でのコミュニケーションの仕方について深く学ぶことができた。



誹謗・中傷を促す書き込み（自作）

啓発動画から学んだことを実践し、自分事として捉え、問題意識をもって解決していく。



児童が考えた回答を返信・投稿

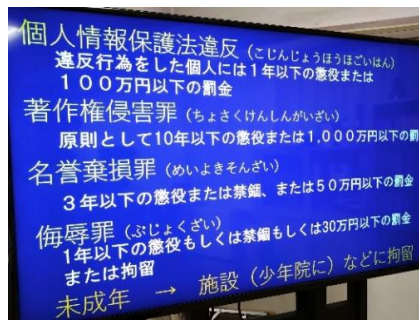
リーディングDXスクール事業【実践事例】

習志野市立香澄小学校（千葉県）【指定校】

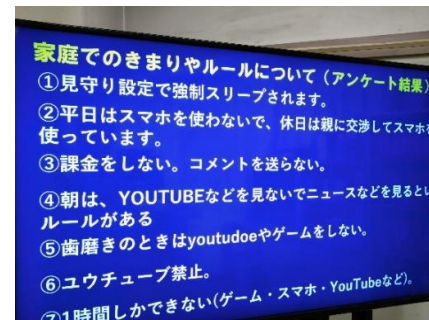
【取組内容】 学校全体における情報モラル教育の充実

【取組③ インターネット上で生じる犯罪や家庭におけるルールについての話し合い】

・ PowerPointを活用し、「個人情報の流出」や「誹謗・中傷」などの行為は犯罪になることや、自分や他人の人生や命を奪ってしまうことなどについて、知らせたり、話し合ったりした。



ネット犯罪について知らせる

家庭でのネットに関する
ルールの共有

【取組④ Formsを活用した学習の振り返り】

- ・ 学習を通して、学んだことや気付いたことをFormsを活用し、投稿できるようにした。
- ・ さらに、児童一人一人の振り返りをモニターに映し、学級全体で共有した。

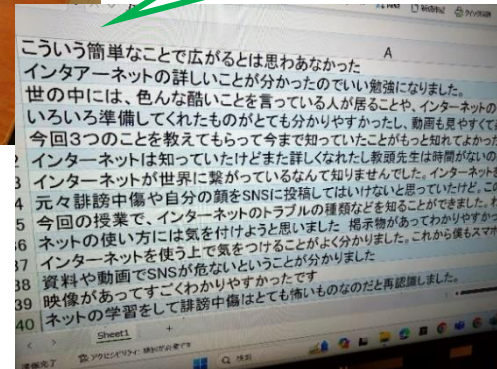


学習で学んだことを投稿

友達が学んだことや
感じたをことを全体
で共有を図る。

【学校全体における成果】

- Formsでの事前アンケートの集計や学習の感想等の集計・共有は、児童の考えの幅を広げたり、教師の評価として活用できたりするなど、効果的であった。
- YouTubeでのネット利用啓発動画などを活用することで、情報モラル教育（個人情報流出や誹謗・中傷など）の課題に沿った学習を構成することができた。
- SNSによるやりとりの状況に応じた返信を実際に投稿することで、自分事として捉え、一人一人が問題意識をもって深く考えることができた。



感想などをモニターで共有

リーディングDXスクール事業【実践事例】

習志野市立香澄小学校（千葉県）【指定校】

【取組内容】 教師の意識を高め、タブレット端末の活用の充実を図る

令和6年度 香澄小学校 情報教育

1 目標

- 一人一台タブレット端末を学習の中で活用し慣れ親しむようにする。
- 一人一台タブレット端末を使用することにより学習効果を高める。
- 情報の受け手、発信者としてのモラルを身につける。

2 各学年のメディア操作能力（生活科、総合）

学 年	基 本 操 作
1 年	電源・ソフトの起動・終了 マウスおよびタッチパネル操作 (ダブルクリック・ドラッグ・スクロール) お絵描き 撮影 準備されたテレビ会議での交流
2 年	インターネットの使い方(簡単な検索) マウス操作(拡大・縮小) お絵描きや撮影したものの簡単な保存 ソフトウェアキーボードを使った文字入力・キー操作
3 年	インターネットの使い方(検索、ホームページを開く) 文字キー操作(ローマ字) 名前を付けたデータの保存 動画撮影・録音 テレビ会議ならではの話し方や動き
4 年	文字キー操作(ローマ字) ファイルへの名前を付けたデータの保存 動画撮影・録音 表計算ソフトを利用した表やグラフの作成 プレゼンテーションソフトを利用した発表スライドの作成
5 年	両手を使ってキーボードを打つ 色や機器などを選択した印刷 ワープロで作成した文書への装飾・画像貼り付け 表計算ソフトを利用した表やグラフの作成 プレゼンテーションソフトを利用した発表スライドの作成 画像や資料を簡単に提示したテレビ会議
6 年	両手を使ってキーボードを打つ ワープロで作成した文書への効果的な装飾・画像貼り付け 表計算ソフトを利用した統計処理 プレゼンテーションソフトを利用したわかりやすい発表 画像処理ソフトを利用した簡単な加工 画像や資料を提示したテレビ会議

【テーマ：タブレット端末による情報活用能力の育成を図る】

【取組① 令和6年度教育計画への位置づけ】

- 児童一人一台タブレット端末を活用し、学習効果を高められるように、位置づけた。
- 各学年ごとに、指導の目安として、タブレット端末での大まかな基本操作について明記した。

【取組② 各学年における具体的な操作】

- 習志野市総合教育センターからの資料も添付し、各学年に応じた具体的な操作やスキルなどについて示した。

【取組③ 家庭学習との連携】

- 原則、毎日タブレット端末を家庭に持ち帰ることとした。
- 家庭学習でも有効活用できるように、各教科ごとの活用例を明記した。

児童生徒の学年別ICT活用スキル一覧(R6達成目標)

1 小学校編

<1年生で指導すべき事項(身に付ける能力)>

内容項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
タブレット端末の電源を入れたり消したりすることができる。	○	○	○	○	○	○
充電や持ち帰りなどタブレット端末の管理ができる。	○	○	○	○	○	○
IDやパスワードなど、先生の指示通りに一人でタブレット端末の画面等を操作できる。	○	○	○	○	○	○
Teamsのチームやチャネルを参照することができる。	○	○	○	○	○	○
タブレット画面上にタッチペン等で手書き文字を書き込めることができる。	○	○	○	○	○	○
簡単な図や絵をタッチペンや図柄挿入等の方法で描くことができる。	○	○	○	○	○	○
色・太さ・図柄、円など、操作を使い分けて、図や絵を描くことができる。	○	○	○	○	○	○
タブレット端末のカメラ機能を使って、写真やビデオを撮影できる。	○	○	○	○	○	○
タブレット端末の動画機能を使って、先生の動きや発表を記録・再生して撮影することができる。	○	○	○	○	○	○
友達の仕事にコメントしたり、いいねなどのマークを投稿できる。	○	○	○	○	○	○
指示された、または、必要なファイルを開くことができる。	○	○	○	○	○	○

Teamsなど画面を転送する機能を使って、自分の考えを発表できる。	○	○	○	○	○	○
Teams上で画面を共有する機能を使って、お互いの考えを知ることができる。	○	○	○	○	○	○
電子黒板を活用して、拡大や縮小をいったりしながら説明ができる。	○	○	○	○	○	○
Formsを使って、アンケートに答えたりできる。	○	○	○	○	○	○
Teamsの投稿、メッセージ機能を使って、応答することができる。	○	○	○	○	○	○
Teamsの会議機能を使って、自宅から授業を受けることができる。	○	○	○	○	○	○
先生の指示のもと、友人にタブレット操作を教えることができる。	○	○	○	○	○	○
教科別にAI型デジタルドリルを活用することができる。	○	○	○	○	○	○
先生の指示のもと、宿題等で課題を自宅に取り組むことができる。	○	○	○	○	○	○

<2年生に追加となる操作>

内容項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
静止画のサイズを変更したり、トリミング等の加工ができる。	○	○	○	○	○	○
プレゼン用紙に、簡単なスライドを作成することができる。	○	○	○	○	○	○
プレゼン用紙に、図や写真を貼り付けたスライドを作成することができる。	○	○	○	○	○	○
Teams上でアプリを共有する機能を使って、新聞・プレゼン・表計算などの協働制作ができる。	○	○	○	○	○	○

<3年生に追加となる操作>

内容項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
キーボードで、タブレット画面上に漢字を含む文字・文章を書き込める。	○	○	○	○	○	○
エクセルや他のツールを使って、表や棒グラフを作成できる。	○	○	○	○	○	○
ワードやOneNote等のツールを使って、文書・レポート等の作成ができる。	○	○	○	○	○	○
スクラッチ、ビジュアルなどプログラミングアプリを授業で活用できる。	○	○	○	○	○	○

ICTスキル一覧表（教育計画）
※市総合教育センター提供

教科	活用事例
教科全般	・「ライブラリ」を活用した読解や自主学習 ・PowerPointを使用した資料作成、新聞作成 ・振り返りシートを使った自己評価の記入 ・Formsを使った確認テスト（小テスト） ・課題に沿った記録（写真・動画・文章による記録） ・Formsを使った事前アンケートの実施（授業でテキストマイニングを使った導入等を行うため）
国語	・音読の録音や撮影 ・着目見聞し等を作成する際、授業に使用する写真の撮影
社会	・Google Earthを使った調べ学習 ・白地図の色分け作業 ・豊産物等の産地調査 ・eライブラリのドリル学習を使った復習
算数・数学	・植物の成長記録の撮影 ・葉や木々の撮影 ・家庭でのお手伝いの様子を撮影 ・月の観察、撮影 ・実験の結果と考察をPowerPoint等にまとめる
理科・生活	・音読の録音や撮影 ・英作文のレポート作成 ・鑑賞教材、表現教材の動画視聴（音楽） ・リコーダーの演奏を動画に撮って提出（音楽） ・デジタル楽器の練習（音楽） ・ペイント3Dを使って絵を描く（図工） ・作成した作品を撮影し、保護者に工夫した点を説明する（図工） ・運動会のリズムダンス、縄跳び等の動画の視聴（体育） ・資料の事前読み、映像教材の視聴（道徳）
英語	・L-Gateにあるタイピング教材 ・「ナラシドライブラリ」を使った読書 ・一言日記
技能教科他	
その他	

家庭学習への活用例（教育計画）

【学校全体における成果】

- 学校全体で、情報教育の計画や方向性について確認し、一人一台タブレット端末の活用を充実することができた。
- 1年生の初めは、市のICT支援員にも協力していただいたことで、学習を進めることができた。

令和6年度教育計画（情報）

リーディングDXスクール事業【実践事例】

習志野市立香澄小学校（千葉県）【指定校】

【取組内容】教師の意識向上とタブレット端末の活用の充実を図る

【取組④ 様々な場面における実践】

- ・各学年において、計画に基づきながら、様々な場面で情報を得たり、活用したりし、学習効率化を図るとともに、情報化活用能力を養えるようにした。
- ・児童が得た情報をまとめ、発信したり、伝えたりする手段として、PowerPointやオフェスソフトなどを低学年のうちから活用できるようにした。

【学校全体における成果】

- 一人一台タブレット端末の活用について、学校全体の教師の意識が高まり、日々、校内で児童が活用する姿が見られるようになった。
- 特に低学年において、雨の日の休み時間や自習時間では、意欲的にタイピングなどに取り組む児童が増えてきた。
- 中・高学年では、各教科の学習調べ学習においてタブレット端末を活用し、情報を得たり、PowerPointやオフェスソフトでまとめた情報を伝えたりすることで、情報活用能力やコミュニケーション能力が少しずつ高まってきたと考えられる。
- 家庭学習では、その学年も主にTeamsを通して連絡や課題を共有しながら、取り組むことができた。



校外学習における写真の取り込（全学年）
※事前に施設の撮影許可を確認



手本や動画の活用
（上学年の毛筆の学習）



考えの比重を「心の数直線」として表現
（全学年の道徳の学習）



調べ学習で得た情報を編集・発表
（全学年の各教科や活用）

リーディングDXスクール事業【実践事例】

習志野市立香澄小学校（千葉県）【指定校】

【取組内容】 オンラインによる国際交流

【取組① Teamsを活用した他国（マレーシア）との交流】

- ・ 教師用タブレット端末を活用し、Teamsによる他国とオンライン授業を行った。
- ・ 国際交流における児童の学びや気付きなどについて、コーディネーター的な人材（英会話講師）と、事前に質問内容や披露する演技（各国の文化的なもの）について、話合った。
- ・ 多数の児童の様子を映すために、特別教室にてスクリーンとプロジェクターを活用して、交流を図った。



教師用タブレット端末による他国とのオンライン交流

他国の児童に挨拶をする本校の児童
※スクリーン画面は、他国の児童の様子

リーディングDXスクール事業【実践事例】

習志野市立香澄小学校（千葉県）【指定校】

【取組内容】 オンラインによる国際交流

【取組② 地域人材や外部専門家の参画】

- ・ オンライン交流の進行などは、コーディネーター的な人材（英会話講師）が務めた。
- ・ 国際交流でも学びを深めるために、互いの国の文化のよさや違いについて披露した。
- ・ 日本の文化の一つとして、地域の人材（落語家）を招いた。



落語を披露する地域人材（落語家）



ソーラン節を披露する本校の児童

【学校全体における成果】

- Teamsによるオンラインにより、映像や音声がかかることなく、円滑に他国との交流を図ることができた。
- お互いの国の文化や挨拶、学校のシステムの違いなど、児童にとって初めて知ることが多く、大変効果的であった。
- 地域人材（英会話講師・落語家）により、我が国や他国の文化に親しみをもつことができた。

【GIGA×情活能力】 国語（書写）の学習におけるタブレット端末の有効活用

＜考 察＞

○学校全体でTeamsを通して、教師から児童への連絡や課題など共有をしているので、児童はすぐにURLから手本や動画を開くことができていた。

○児童の机の幅が狭かったが、学習の環境を整えて取り組むことを意識させたことで、タブレット端末を安全に活用することができた。

○タブレット端末による手本画像や動画の活用は、繰り返し確認できるなど、児童が自由に操作する姿が見られ、効果的であった。

【取組① 手本画像や動画の共有】

- ・書写の教科書に記載してある課題のQRコードを教師が読み取り、Teamsを通して、そのURLを児童一人一人に共有した。
 - ・タブレット端末に共有させたURLを開き、画面に映し出された課題を手本にして練習に取り組んだ。
- ※学習の展開として、練習の前に必ずモニターを通して、教師が全体に書き順や筆遣いなどの指導を行った。



手本画像や筆遣いの動画を活用した練習

【取組② 手本画像や動画の操作】

- ・単元の初めの時期は、児童に自分で手本を拡大縮小したり、筆遣いの動画を繰り返し確認したりして、練習に取り組むように促した。
- ・児童の机の幅が狭いので、練習の前には、タブレット端末を落下させないように、学習環境を整えて取り組むことを確認した。



見たい筆遣いの部分を自由に操作

【GIGA×情活能力】 国語（書写）の学習におけるタブレット端末の有効活用

＜考察＞

- タブレット端末による手本画像や動画の活用に慣れると、児童自らペン書き機能などを使って、気を付けたい部分に印やマークを画面に描く児童が見られるようになった。このような児童の姿が広まり、自分の課題を進ん解決しようとする児童が増えた。
- 書き上げた作品を自分でタブレット端末に取り込み、前回の作品と比較できるようにしたこと、児童一人一人が伸びや努力を実感することができた。
- モニターに児童の作品を映したことで、学級全体でも友達の作品の伸びや努力について共有することができた。
- 児童の特性や思いに応じることができ、多くの児童が自力解決するよさを実感できた。



自分の作品を写真で取り込み
前回の作品と比較

【取組③ 作品の比較と自己評価】

- ・ 清書後、書き上げた自分の作品をカメラ機能を活用し、タブレット端末に取り込んだ。
- ・ 前回の取り込んだ自分の作品と比較し、自己評価できるようにした。
- ・ 教師用のタブレット端末では、児童の作品を取り込み、モニターに映すことで、学級全体で友達の作品の伸びなどを共有した。

【取組④ 児童の特性に応じた活用】

- ・ 学習中は、児童の特性や思いを優先し、タブレット端末または教科書の活用を選択できるようにした。



弱視の児童による手本を拡大した活用

【GIGA×指導の工夫・改善】 道徳科の研究における児童実態調査の工夫

<考 察>

○道徳科の研究では、研究主任が中心となり、児童の内面的・客観的な実態調査として「Y-Pアセスメント」（学校生活アンケート）を実施した。

児童一人一台のタブレット端末により、TeamsやFormsを活用したことで円滑に全児童の実態調査を行うことができた。

○自分の思考の比重について、その理由をノートに書かせるなど、思考の文字化、意思決定を通して、ノートとタブレット端末をの活用を効果的に構成させることができた。

がっこうせいふくつ
学校生活についてのアンケート Ver.5

小学校3年生～中学校3年生用

このアンケートは、みなさんが学校生活についてどのように感じているかについて質問します。これはテストではありませんから、正しい答えや間違いはありませんので、安心して答えてください。

また、質問に答えるときは、一つについて深く考え過ぎないで、自分の思ったとおり、感じたとおりに気楽な気持ちで答えてください。

もし間違えたときは、消しゴムを使わず、下の例のように書き直してください。

1	2	3	4	5
全くそのとおりでない	そのとおりでない	どちらでもない	そのとおり	とてもそのとおり

① 「勉強することが好きです」という質問に、最初「どちらともいえない」を塗り、後から「そのとおり」に塗った回答。

② 塗り直すことができます。

学年 氏名

【取組①】

1学期にTeamsを活用し、各学級の児童へFormsで作成した道徳実態調査アンケート（学校生活アンケート）掲載し、全校児童における調査を実施した。

※1年生など、まだタブレット端末に慣れない児童においては、市のICT支援員に支援していただいた。

学校でのあなたの様子について、あてはまると思う答えの数字に○をつけてください。
12の質問すべてに答えてください。

わたしは・・・

	1	2	3	4	5
① わたしは、クラスで何かを決めるとき、アイデアをたくさん出すことができます。					
② わたしは、友達を助けることができます。					
③ わたしは、友達と協力して、最も得意なことを、ほかの友達に教えることができます。					
④ わたしは、自分の得意なことは、はっきりと伝えることができます。					
⑤ わたしは、他の人の得意なことがあれば、互に質問することができます。					
⑥ わたしは、好きな友達と一緒によく遊ぶことができます。					
⑦ わたしは、自分が悪いと思ったとき、自分から謝ることができる。					
⑧ わたしは、他の人と友達で遊んでいるとき、自分の得意なことを教えることができます。					
⑨ わたしは、友達の話を最後までよく聞きます。					
⑩ わたしは、友達が話したり話しているところに、入っていくことができます。					
⑪ わたしは、他の人のことを考えて、自分の得意なことを教えることができます。					

質問はこれで終わりです。
記入が足りないかいないか確認してください。

次のページに記入してください。

リーディングDXスクール事業【GIGA×指導の工夫・改善】

習志野市立香澄小学校（千葉県）【指定校】

【GIGA×指導の工夫・改善】 道徳科の研究における児童実態調査の工夫

<考 察>

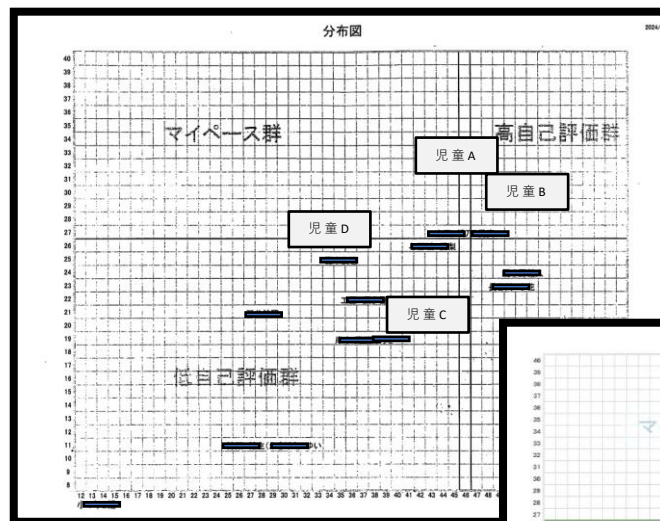
○学校支援ソフトを活用し、学校生活アンケートのデータをY-Pアセスメント分布図に反映させた。この分図によって、児童一人一人の生活面における実態の特徴や傾向を把握することができた。

※右の2つの分布図から、ある学級の実態の変容が明確になった。分布図の中心に近い児童が増えてきたことで、精神面において安定してきたことが分かる。

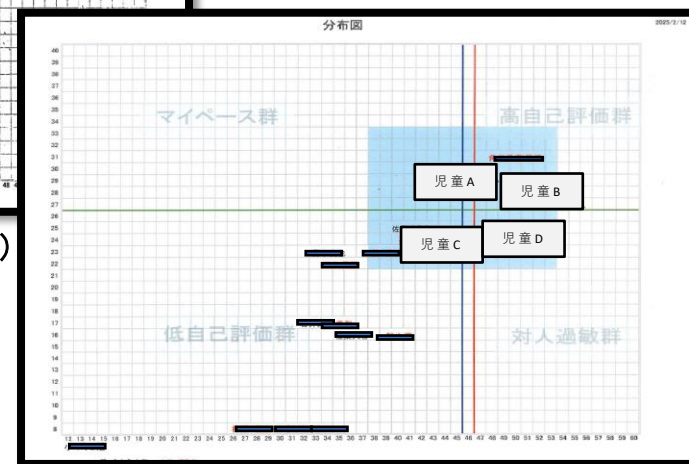
○普段の生活態度や道徳科の学習内容に関する事前調査などと、Y-Pアセスメント分布図を活用することで、より児童一人一人の実態について把握でき、普段の生活指導や学習指導、道徳科の研究などに生かすことができた。

【取組②】

- ・Formsを活用し、アンケート調査の集計を行う。さらに、集計したデータを学校支援ソフトにて、Y-Pアセスメント分布図に反映させる。
- ・全学級のデータの反映が完了したら、各学級にY-Pアセスメント分布図を配付する。
- ・各学級では、配付されたY-Pアセスメント分布図を参考にして、実態調査を行い、道徳科の学習や研究、普段の生活指導などに役立てていく。



Y-Pアセスメント分布図（7月）



Y-Pアセスメント分布図（2月）

リーディングDXスクール事業【GIGA×教科】

習志野市立香澄小学校（千葉県）【指定校】

【GIGA×小学校・道徳科】 考えを深めるための話し合い活動と共有化の充実

<考 察>

○デジタル教科書の活用は、教材の内容に合った音声での範読が流れ、児童が内容をより理解するために効果的であった。

○タブレット端末による学習支援ソフトの活用では、児童一人一人の思考の比重を表すことができるなど、児童が視覚的に捉えることができた。

○自分の思考の比重について、その理由をノートに書かせるなど、思考の文字化、意思決定を通して、ノートとタブレット端末をの活用を効果的に構成させることができた。

【展開① 導入】

主に教科書やデジタル教科書を活用し、教材の内容について、本文や挿絵から読み取り、本時の学習テーマを考えていく。

※教科書やデジタル教科書、またはYouTube（動画）の使い分けについては学習内容やねらいなどによって、検討していく。



板書を中心に道徳の学習を展開

【展開② 自分の考えをもつ】

教師の発問に対し、児童一人一人が考えをもち、それを表現する場合は、ノートや学習支援ソフトを活用する。

※主にねらいに迫るための教師の中心発問の際に活用する。



考えた理由をノートに記録



学習支援ソフトによる思考の表現

リーディングDXスクール事業【GIGA×教科】

習志野市立香澄小学校（千葉県）【指定校】

【GIGA×小学校・道徳科】考えを深めるための話し合い活動と共有化の充実

＜考 察＞

○話し合い活動では、ノートやタブレット端末に表現した自分の思考を示しながら、意見交換することで、新たな考えに気付いたり、考えを深めたりする児童が多く見られた。

○学校支援ソフトの活用により、児童の最初の思考と学習後の思考の変化を視覚的に明確に捉えることができた。そのため、児童の心の葛藤を自分の言葉で明らかにすることができた。

【展開③ 思考の共有化】

学習支援ソフトを活用し、児童一人一人の考えについて、全体で共有化を図る。その際、児童の気付きを取り上げ、それぞれの思考の共通点や相違点などに気付かせ、様々な視点から捉えられるようにする。



学習支援ソフトによる思考の共有化



話し合い活動

【展開④ 話し合い活動】

さらに、自分の考えについて、ノートやタブレット端末で示しながら、意見交換を行い、考えを深めていく。意見交換を通して、考えが変わった場合は、記録に残し、全体に伝えていく。



学習の感想などを記録

【展開⑤ 終末】

板書やノート、タブレット端末を振り返りながら、学習を通して学んだことや気付いたこと、感想などをまとめ、ノートやタブレット端末に記録する。